

第 5 回八戸市学校適正配置検討委員会会議録

日 時：平成 21 年 10 月 5 日（月）10:00～12:00

場 所：八戸市庁本館 3 階 議会第一委員会室

出席者：（委 員）目修三、古館良策、今勝康、大島光子、今川一、黒澤宗男、古館義美、
北向幸吉、岩村隆二、日山祥子（以上 10 名）

（市教委）松山教育長、芝教育部長、伊藤教育部次長、高野学校教育課長、
佐々木学務 GL、磯嶋学務 G 主査、町井学務 G 主査（以上 7 名）

計 17 名

事務局：ただいまから第 5 回八戸市学校適正配置検討委員会を開催させていただきます。本日は委員
全員が出席となっていますので、八戸市学校適正配置検討委員会設置要綱第 5 条第 3 項の規
定によりまして本日の会議は成立となりますことを皆様にご報告させていただきます。

事務局：早速審議に入りますが、進行は目委員長にお願いしたいと思います。よろしくお願いたし
ます。

委員長：それでは会議を進めさせていただきます。まず初めに、委員の皆様にお願ひがあります。当
委員会の会議録及び会議資料につきましては、第 1 回検討委員会において「提言後に公開」
と決定したところではありますが、個人情報等の配慮が必要な部分もあります。そこで、今ま
での委員会の公開する資料につきまして事務局のほうで整理したものについて、次回委員会
までに内容確認をお願いいたします。それでは資料の内容について事務局から説明をお願い
します。

（事務局「会議資料等の公開について」説明）

委員長：ありがとうございました。ただいまの事務局からの説明につきましてご意見あるいはご質問
はございますか。

（委員質問なし）

委員長：それでは、事務局からの説明にもありましたように次回委員会の冒頭で第 3 回までの内容を
確認したいと思います。

委員長：次に、前回の委員会で小規模校の対策等について事務局から説明していただきましたが、委
員からの質問に対して事務局から補足説明がありますのでお願いします。

（事務局「複式校の学区外通学者数」説明）

委員長：ありがとうございました。ただいまの事務局からの説明につきましてご意見あるいはご質問
はございますか。

（委員質問なし）

委員長：次に、前回審議を終了しました美保野中学校地区について事務局でまとめていただきました。
説明をお願いします。

（事務局「審議のまとめについて」説明）

委員長：ありがとうございました。審議のまとめについてご意見・ご質問はございますでしょうか。
（委員異議なし）

委員長：よろしいようですので、美保野中学校地区に関してはこのようにまとめるということで、委員会として了承したいと思います。それでは、次の審議対象地区は島守中学校地区・中沢中学校地区ですが、審議に入る前に事務局から対象地区の説明をお願いいたします。

(事務局「島守中学校地区のまとめ、中沢中学校地区のまとめ」説明)

委員長：ありがとうございました。それでは対象地区の審議に入りたいと思います。今の説明に対する質問等は審議の中で適宜出していただきたいと思います。それでは、島守中学校地区を中心に最初に議論してそれから中沢中学校地区の議論に入りたいと思います。まずは島守中学校地区の意見を伺いたいと思います

委員：島守中学校地区は小学校と中学校がそれぞれ一つずつあり、隣接する地域を見ても地域の歴史等を見ても現状のままでいいと思う。地域から田代小中学校も含めて検討すべきとの意見もあるが、田代小中学校は組合立なので階上町との調整も必要になってくると思う。その辺も行政側では踏まえて検討するのか伺いたい。

委員長：田代地区の問題について、説明も含めて事務局からお願いします。

事務局：田代小中学校につきましては、委員からも先程お話がありましたが、学校組合立ですし組合立の議会もあります。また、階上町教育委員会との調整も必要となります。今の適正配置事業においては、この田代小中学校については対象としないで進めております。今後、どうあればいいのか検討を要することになりましたら、関係機関・団体と話を進めていきたいと思っております。従いまして、田代小中学校への保護者への説明会は今のところは予定しておりません。

委員：今年の4月から地域密着型ということで小中の連携を立ち上げたと同っている。そういうことを考えれば、この島守地区は手をつけなくて小中の特色ある連携的なものを含めて新しい取組みをしたほうがいいと思う。

委員長：意見交換会でも多少意見が出ていますが、地域密着型について事務局で説明をお願いします。

事務局：地域密着型教育事業は昨年度から実施しており、モデル指定校として2校お願いしております。一つは柏崎小学校で、もう一つは第一中学校です。更に今年度からは9校が指定校として手を挙げていただきまして、その中には島守小学校と島守中学校も含まれます。地域密着型教育の目指すところは、地域と一緒に子どもを育て、学校や地域が共に連携して学校運営をしていきたいと思います。その中では、日頃の教育活動も保護者や地域の方々に参画していただいて地域の子供達と一緒に育て、最終的には教育についての責任を持ち、地域の学校としてより充実したものになるようにということを目指して進めているところです。例えば第一中学校では、PTA活動との連携ということで地域密着型教育の仕組みの中に教育活動支援プロジェクト・学校図書館支援プロジェクト・環境整備支援プロジェクト・情報発信支援プロジェクトの4つのプロジェクトがあり、これまでのPTA活動の組織と結びつけて学校教育活動を充実させて、子ども達・地域・学校が元気になる仕組みづくりを行っています。

事務局：今の説明に補足いたします。地域密着型教育のモデル校はこれまでは学校単位で行ってききましたが、いろいろなパターンがあつていいのではないかとということで、島守の場合は小中一体となった地域密着型ということで、先日正式に委員を委嘱してスタートしたところでございます。

委員：島守小中学校の場合は、現在、児童生徒を持たないPTA準会員全戸からPTA会費をもらっているのですが、今始まったということではなく以前から行われていた。また更に進めて行けば素晴らしいものになると思う。田代小中学校は複式が進んでおり将来3学級になるので、将来、学校組合立を解散して階上町もしくは八戸市の学区に入れたほうが良いと私は思う。

委員：先般、南郷地区の小中学校を委員の皆様と見学したが、島守地区と中沢地区は非常に距離があると感じた。過去の行政区域の違いも含めていろいろな観点から見て、先程委員からあったように、この地域は統廃合ではなく地域密着型の特色を生かした教育を広げていったほうが良いと感じた。

委員：3つほど質問させていただきたい。一つ目は、学校組合とは何か。二つ目は、地域意見交換会の意見にもあったが、ドイツの公設型スポーツクラブとはどういうものか。三つ目は、スクールバスとはどういうものなのか、普通に定期券もって乗車するものなのか。

事務局：学校組合の件ですが、田代地区は行政区が八戸市と階上町とにまたがったところにある地域です。

委員：道路をまたがった地域なので、階上町と南郷村がお互いにお金を出し合って学校や組合、議会、教育委員会を作った地域である。

事務局：最近では組合立というのを無くして、どちらかの市町村がお金を出して教育委託という形で運営しているところも出てきているようです。

事務局：スポーツクラブの件ですが、ドイツのスポーツクラブについて詳しく存じ上げませんが、要は、学校で行う部活動ではなく地域でスポーツクラブを創設して地域で指導していくという社会教育的な視点で行っているものだと思います。スクールバスについては、各停留所を設定してバスが児童生徒を乗せて朝夕の登下校で学校まで運行しています。従いまして、定期券等は使用せずに無料で運行しています。

委員：これは経緯があります。頃巻沢小学校、不習小学校が島守小学校に統合されたときに、その条件としてスクールバスを運行するということがあって、それが現在も続いているということです。

事務局：若干中学生も利用はしていますが、主に小学生が多く利用しています。ご参考までに、これは南郷区のみでの運行で、旧市内でスクールバスを運行しているところはありません。

委員長：地域のスポーツクラブに属していると出られない大会もあるのでしょうか。

事務局：小学校であればスポーツ少年団の大会には出られます。

事務局：大会によって参加規程があって、場合によっては出られない場合もあります。

委員長：大会に出るといのは部活動の大きな要因ですので、中学校で中体連に出られないとか、そうなったときにどういう形で解消できるのか。ドイツのスポーツクラブのように社会のシステムができていればいいのですが、日本の場合は大会に出られないということになると大きな問題があると感じました。その他にご意見はありますか。

委員：地域密着型教育推進事業について全然知らなかった。もう少し詳しく知りたいので教えてほしい。

事務局：考え方はイギリスのコミュニティ・スクールの発想からきています。簡単に言うと地域総がかりで学校を運営していこうという考え方です。今までは校長先生を中心に学校職員が学校経営をしていたのですが、そうではなくて学校で組織を作り、学校経営に対してのアドバイ

スもいただきます。責任の共有という言葉も使います。責任を学校に押し付けるのではなく、地域皆で一緒に考えていくという考え方でメンバーに入ってもらっていますが、これには3つありまして、一つは学校評価に関わる部分、学校経営・学校運営に関する部分、ボランティアに関する部分があります。例えば第一中学校の例をあげますと、図書室にたくさんの人たちに入ってもらおう。このようなことを地域の方々の協力を得て皆でやっていく。人事権や予算権が入るのがコミュニティ・スクールですが、それははずして、八戸市独自で皆でやっていこうという考え方です。

委員：地域密着型教育については、長者小学校で先日、最初の説明会があった。来週になると具体的に人選、組織の名称、形が出来てくるのかと思う。

委員：地域密着型教育推進事業を始める前に、文科省で学校支援本部というのがあった。携わってきて非常にいいことだと思うのは、開かれた学校であるということである。地域に対して学校の状況が見えやすくなってきた。ただ、コーディネーターの力量によって変わってくる。そういう意味ではコーディネーターの研修会もやっていく必要があると思う。学校と地域の関わりも深めていければいいと思う。地域密着型教育推進事業が今年度は9校と聞いたが、もっともっと増えていけばこの問題も解決できるのではないかと思う。もう一つは10年前から実施しているグッジョブも地域との関わりがあり、地元の企業が協力しようという意識が地域の方々に浸透して非常に良い環境になってきている。この二本の柱を進めて行けば、この学校適正配置についても理解をいただけるのではないかと思うのでこの事業は大いに進めていただきたいと思っている。

事務局：地域密着型教育推進事業につきましては、教育委員会としましては、ゆくゆくは全校で実施したいと構想を練っているところです。形だけ整えるのではなく、地域でじっくり話し合っで進めるよう担当にも言っております。

委員：地域密着型教育については、考え方は非常にいいと思うが、これはなかなか難しい問題だと思う。学校の校長先生や教頭先生はすぐ理解できると思うが、住民は保護者の立場で趣旨を理解することは難しいと思う。今までの学校評議員もそれほど機能を果たさなかったのではないかと思う。住民の意識レベルによって違ってくると思う。地域密着型教育において、仲良しクラブなど学校の校舎の開放についても方策として考えているのか。

事務局：それはこれからの進め方次第だと思います。行政主導でやるのではなくお互いどうやっていくのか議論を深める必要があると思います。私たちは4つの共有というのを話してきました。まず情報の共有・願いの共有・責任の共有・もう一つはお互い同士が学びあって高まっていきましょうということで、お互いに経験を積んでお互いに学びあっていきたいと考えております。地域によっては時間がかかると思いますが、自分たちで学校を育てるという気持ちを持っていただきたい、そういう願いをもっています。

委員：地域密着型から生まれたいい例だが、今まで根城地区の敬老会を根城公民館で、午前1回、午後1回、コミュニティーセンターで1回と3回に分けて開催し、そこに小学校の児童や保育園児が来て合唱の発表等を行ってきた。それを今年、中学校で体育館を開放していただいた。そこで、これまで3回に分けていたものを1回で実施することができた。そういう英断を学校がしてくれた。全ての老人が全ての発表を見ることができ、非常に喜んだ。全部の地域の方々700名が一同に会して実施できたのは非常に良かった。椅子は生徒が使っているも

のを学校が用意してくれた。そういう環境が生まれてくるのが、地域密着型から出てきたものだと思う。

事務局：お手元に配付させていただきましたが、今年度の地域密着型教育推進フォーラムを11月20日金曜日午後1時20分からスウィングベリー南郷で開催いたします。2年目になります。先程課長からも説明がありましたが、ここでは柏崎小学校、第一中学校から事業の成果と課題につきまして報告させていただきたいと思います。そのあとに教育委員会から事業説明をさせていただきます。最後にコミュニティ・スクール関係の第一人者で「地域と学校をつくる」という発想をお持ちの日本大学文理学部の佐藤教授に今年度も来ていただきまして、八戸市が進めている地域密着型事業についてご提言いただきたいと思います。ちなみに先程委員からお話ありました学校支援地域本部事業のパネル展も同時開催いたします。是非皆様にお越しいただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

委員長：地域密着型というところに話が集中していますが、その他ご意見はございますか。議論の大勢は地域性、隣接する学校の距離の問題、現状でもかなり地域住民とのつながりが深いということで、このまま大きな変更という意見は出ていません。ただ問題点は島守小学校が平成23年から複式に入ってくるという事態があるわけです。これについてどのように考えていくということにも触れたいと思います。他の学区との問題もありますが、なかなか学区だけで生徒数を増やすというのは極めて困難なわけです。そういう議論をすると郡部の学校は逐次、時間の問題で閉鎖されていくということになってしまうわけです。都市部にいる子ども達が、それぞれの目的で、状況が許せば地域に少し散っていくというような方策も考えていかなければ、島守中学校地区をこのまま残しても、やはり平成23年から複式が続きますし、この傾向がもっと続けば6年か7年後にはどうしようかという議論に成りかねません。ですから、そういった意味では地域密着型が一つのでこにはなるのでしようけれども、何らかの形でなんとしても複式は解消する、そういうための学校づくりというものが検討されるべきでないかと思います。島守地区の地域に密着し、そして地域の良さを生かした学校運営は必ずしも島守地区の子ども達だけでなく、まちなかで過ごした子どもたちが学校教育を地域で受けることによって、豊かな学校生活を送れるという可能性もあると思います。そういったことも踏まえて、ある程度の方策も今後検討していく必要があるのではないかと思います。そういう意味では、地域の意見にありましたが、小中一貫については委員会としても検討していく必要があるのかなと思います。この辺についてご意見はありますか。

委員：この間、他の父兄と一緒に行った複式の学校の話だが、複式解消のために寄宿舎を建てて都会の方から募集するというのも一つの方法ではないかという冗談とも本音ともつかない話をしていた。それも一つの方法として検討する必要があると思った。

委員：島守中学校と中沢中学校はどれぐらいの距離があるのでしょうか。

委員：5キロメートルから6キロメートルだと思う。旧島守村と旧中沢村が合併して南郷という村ができた。合併当時、役場を一つに決められなかったという経緯もあったようである。

委員：島守地区は、住民の感情がまだしっくりしていない部分はあると思う。この地区の活路を見出すとすれば、やはり考えられるのはやはり小中一貫校だと思う。

委員：将来的には、南郷区は小学校1校、中学校1校にしたほうがいいのかと思う。南郷グリーントウンのあたりが南郷の中心になるので、そこに1校建てればお互いに譲り合う感じもするの

だが、島守地区の方々には複式授業の経験をしたことがないので、そうなった場合、父兄たちがどう考えるか、急に統廃合とするよりはそこまで待つしかない、現状ではそう思う。

委員長：このまま待つというのもあるのですが、何らかの地域の良さを生かしていただいて、寄宿舎が可能かどうか別にしても、子どもをせめて小学校中学校は田舎で育てたいという親御さんもいるかも知れませんが、まちのほうから受け入れるというような試みがあってもいいのかなと思います。

委員：小中一貫校というのは具体的にどのような特色があるのか。

事務局：小中一貫校となると小学校と中学校の先生方が一緒に教育を行うこととなります。教職員もそれに併せて配置していかなければなりません。

事務局：現在八戸市で実施している小中ジョイントスクール事業は、小・中学校それぞれの校長先生が教育課程をたてて行っているわけですが、同じ地域なのでそれを一緒にして、小・中学校の9年間を通した一つの教育の計画をたててやりましょうという考え方です。今の小学校6年中学校3年制に問題があるという意見もありますし、それが小中一貫校の中で柔軟に対応できるということも出てきます。例えば今やっているのは4・3・2として、小学校4年生までは基礎的な学習、小学校5年生から中学校1年生まで中間の教育、中学校2年生からは進路を意識してしっかりした計画をやるという考え方も出てきています。ただ、今出ているような複式学級が小中一貫になったときに解消できるかということ、今の法律の中では学級の定数なども変えていかなければ難しいと思います。

事務局：情報としてお知らせいたします。東京の品川区で小中一貫教育を特に進めています。日野学園などいろいろありますが、小中一貫の為に学園という言葉を使っています。小学校1年から4年が一つのくくり、小学校5年から中学校1年まで、中学校2年生から3年生と3つに分かれています。教育課程の中身もいろいろ工夫できます。小学校6年生から中学校1年生にあがる時に中一ギャップと言われる不登校が全国的には3倍に増えると言われてますが、日野学園の副校長先生がおっしゃるには、日野学園の例であれば不登校がない。そういうメリット及び良さがあります。興味があればインターネット等で調べていただきたいと思います。もし資料が必要であればお渡しいたします。

委員長：6年のスパンで教育を考えるのか9年までかけて考えるのかで学校の生徒に対する取組みが違ふみたいですね。ヨーロッパでは初等教育にかなり長い年数をかけているみたいですが。

委員：島守地区で地域密着型を提言しているが、この地区で小中を一貫校にしたいとなれば可能なものか。

事務局：可能ではあります。

委員：現在、春の運動会は小中一緒にやっている。そこから既にジョイントスクールを始めているので、島守はすんなり入れるのではないかと。父兄たちは既に学校中心に活動している。鳩田小学校もそうだが、田舎に行けばいくほど学校中心に活動しているので地域密着型には馴染むと思う。

委員長：小中一貫となると手続き上の問題もあるでしょうし、先生の問題もあると思いますのですが、この委員会としてはそういうところも視野に入れて、島守地区は地域に密着して人口の多いところから島守地区で子どもたちを学ばせたいという形をつくって、何とか複式を避けられるような運営をやっていただくということで、島守地区は現

状維持という形が今までのご意見かと思いますがいかがでしょうか。

(委員異議なし)

委員長：島守中学校地区に関しては、是非とも魅力あるそして外部から受け入れできるような学校にしていきたいと思います。それでは続けて中沢地区に入りたいと思います。資料を見ますと中沢地区は小学校が3校でそのうちの2つが複式学級と厳しい状況となっていますが、この学区についての委員の皆様のご意見を伺いたいと思います。忌憚の無いご意見をお願いします。

委員：先日、鳩田小学校に行って初めて複式の授業を見学した。1年生と2年生と一緒に勉強できるのがすばらしいと思うし、教育格差もないというのも理解した。特にこの鳩田小学校に関しては、PTA正会員が15世帯しか無いにも関わらず準会員が180人というのは、ものすごい地域の団結力があると思うし、更に学区推進協議会として200以上の世帯が学校を支えている。本当に地域の方々が学校を支えていると関心するとともにすばらしい学校であると感じた。鳩田小学校に関しては、私は今のままやっていけたらいいのかなと思う。

委員：鳩田小学校は、他の小学校とは距離的に少し離れているが、中野小学校と市野沢小学校は距離的にどれくらい離れているのか。

委員：2キロメートルぐらいだと思う。

委員：学校を中心にすれば、中野小学校から市野沢小学校まで歩いて通うには、健康上ちょうどいい距離だと思う。

委員：集落と集落の間に人家が無いので危ないと思う。だから、もし将来的に市野沢小学校に統合ということになればスクールバスの運行を条件にしてやっていかなければならないと思う。私も鳩田小学校の複式の授業を見学したが、1年生が読むのが元気で、2年生の児童が発表しているのがこちら側には全然聞こえないような状況で気の毒であった。1年生のときからハンディがつくと可愛そうだと思うので、その辺を解消していくのであれば、地域感情もあると思うが、中野小学校は市野沢小学校と一緒にできればいいと思った。

委員長：先程、島守地区と中沢地区の地域感情がなかなか現在も解消できていないという話が出ていましたが、鳩田小学校と中野小学校、市野沢小学校の感情はどうなのでしょう。

委員：中野小学校はそうではないと思う。中野小地区の住民は覚悟しているのではないかと私は思う。鳩田小学校の5年生がゼロとなっているが、当時、鳩田小学校の保護者が大きい学校に通わせたいという事で市野沢小学校へ学区外通学を申請した。南郷村時代は自由学区だったのでこういうことになってしまったという経緯がある。父兄にしてみれば、大きい学校に入りたいという願いのほうが強いのではないかと感じる。地域の願いや想いがあると思うが、ただ複式学級の子どものたちの勉強の状態を見た場合、大きい学校に入れて一人の先生に教わるほうがいいと思った。

委員長：意見交換会で南郷地区は1中学校1小学校が妥当であるとの意見も出ているように、南郷地区でもある程度それは浸透しているという感じは受けます。ただ、問題点は複式学級の解消というのが一番大きな問題でありますし、児童の通学の安全性はきちんと確保しなければならないということが大きなネックになっていると思います。地域とのつながりが学校の存続でしか地域のまとまりが得られないとなると、これはなかなか手が打てません。ですから学校の建物がうまく利用されることも検討しながら今までの地域のまとまりが維持されるよ

うな方策も必要だという感じは受けました。

中沢中学校について検討したいと思いますが、こちらも生徒数が減少する見込みではありますが73名ということで一応3学級体制ということです。他とくっつけるといってもなかなか相手がないという状況もありますので、中沢地区は、中学校は現状維持はやむを得ないだろうと思います。あと10年後ぐらいに改めて見直すしかないだろうと思います。これからの議論は小学校をどうするかに集中したいと思います。ご意見はございませんでしょうか。

委員：地域の意見の中に、保育所と一緒に小学校で別れて中学校でまた一緒になるというのがあったが、市野沢保育所はどこにあるのか。

委員：市内から向かってきて鳩田小学校に分かれる道路に農協があつて、そこから右に300メートルくらい行ったところである。南郷区役所からも500メートル離れているかどうかという感じである。

委員：保育所への入所率がどれぐらいか分からないが、ほとんどの家庭で預けているのか。

委員：そうだと思う。スクールバスが中野・鳩田地区を回って市野沢保育所に来ているという状況である。もともとは中野・鳩田地区にも保育所はあったのだが人数が少なくなったということで市野沢保育所に統合された。

委員長：そういった意味では他の地区とは少し違う要素はあります。保育所が一つで、小学校で3つに分かれる。これが順調にいったらいいと思いますが、そのうちの二つの学校が維持できないとなるとこれはちょっと問題であると思います。

委員：修学旅行も市野沢小学校を中心に中野小学校、鳩田小学校と一緒にやっている。

事務局：距離について補足いたします。中野小学校から市野沢小学校までは約2.7キロメートル、鳩田小学校から市野沢小学校までは約5キロメートルあります。

事務局：先程委員から市野沢保育所の件につきましてご意見がありました。参考までご紹介いたします。10月1日現在ですが市野沢保育所で来年度小学校に入学する園児が〇名います。そのうち〇名が南郷区に住んでいる方です。内訳は市野沢小学区に〇名、鳩田小学区に〇名、中野小学区に〇名が今現在入所しています。

委員：未就学児の保育所への入所率というのは分かるか。

事務局：今は分かりません。後で調べてご連絡いたします。

委員：ほとんど預けていると思う。農家の方や八戸のほうへ共働きしている方も多くいる。バスが南郷まで迎えに来て八戸の幼稚園に通っている子どももいる。

委員：凶南小学校の裏の凶南保育園には南郷から通勤してくる車が乗せて来る方が数名いる。桜木町のサンフラワー保育園にもいる。

委員長：先程委員から、できれば鳩田小学校は残せないものかのご意見がありましたが、他の委員の皆様はいかがでしょう。

委員：鳩田小学校を残すのであれば中野小学校も残すということになる。鳩田小学校の場合、実際に現場を見て地域の支援のすばらしさなどを感じたからそう思うかも知れないが、それは中野小学校もどこでも同じである。ただ、児童が増える見込みがなく、これ以上学校を支援するといっても支援する方々も高齢化で難しくなっている。そういうことを考えれば市野沢小学校と一緒にあったほうがいいと思う。

委員：学区外通学で鳩田小学区から〇人が市野沢小に通学している状況を見ると、地域住民にとっ

でも既に環境がある程度整いつつあると感じる。そうすると、それ以外の方々もそのように感じていると思う。現在、そのような学区外通学をしている方にはスクールバスが出ていないと思うが、一緒になればこの方々もスクールバスを利用できる。そのことも考えるとやはり統廃合という言葉はあまり良くないが、両方を合わせた検討を重ねていったほうが良いと思う。

委員長：前提としてやはりスクールバスがなければ、特に低学年だと必要であると思います。

委員：泉清水地区あたりだと学校まで7キロメートル近くある。八戸市に合併して学区制がしかれた。南郷村時代は自由学区であった。鳩田小学校の5年生がゼロというのは、鳩田小学区の児童の親御さんたちが市野沢小学校へ入りたいということで全部市野沢小学校へ入ったということである。

委員：2点伺いたい。保育園へは親御さんが送り迎えするのではなく、スクールバスが子ども達を迎えに行くということによろしいか。もう1点は、鳩田小学区と中野小学区の地域の皆様の生活圏というのはどの辺になるのか。

委員：保育所に関してはバスで送迎している。生活圏については、買い物はほとんど市野沢地区や八戸市街へ行っている。今はほとんどの家庭で車を持っているからいいが、地元で商店がなくなってきているので、車を持たないお年寄りの方々が大変である。

委員長：そろそろ時間となります。意見はある程度集約されつつあり結論が出ている委員もいらっしゃると思いますが、小学校の廃校という意見は初めてのケースですので、次回で総ざらいをして結論を出したいと思います。南郷地区も確かに特殊な事情もあると思いますが、しかし二つの小学校を特認校として存続しても美保野小のように複式が解消される見込みはないと思いますので、今回は島守中学区については現状維持、ただし将来に向けて複式が解消できるような地域密着型の成果を生かして小中一貫も視野に入れて学校づくりをやっていたきたいという結論としたいと思います。また、中沢中学区については継続審議としたいと思いますが、委員の皆様いかがでしょうか。

(委員異議なし)

委員長：それではそのようにさせていただきます。その他に何かご意見等ございますか。

事務局：保育所の件で補足させていただきます。市野沢保育所は公立です。八戸市立の保育所ですし、南郷区には同じくもう一つ公立の島守保育所があります。市野沢保育所のほうだけスクールバスの送迎がありまして、それは市野沢小学校の児童送迎のスクールバスがそのまま保育所のスクールバスに替わる、時間でやりくりしているということを情報としてお知らせいたします。

委員長：他にございませんか。なければ事務局へお返しいたします。

事務局：ご審議ありがとうございました。それでは事務局から2点ご報告させていただきます。まず1点目は地域意見交換会の開催日程のお知らせです。これまで9回開催していましたが、10回目を鮫中学校地区で開催することとしました。期日は10月9日(金)、時間は午後6時30分から、場所は鮫中学校体育館において開催いたします。鮫中、鮫小、種差小の3校が対象となります。11回目は白銀中学校地区で開催いたします。期日は10月29日(木)、時間は午後6時30分から、場所は白銀小学校体育館において開催いたします。白銀中、白銀小、白鷗小の3校が対象となります。12回目は白銀南中学校地区で開催いたします。期

日は11月13日(金)、時間は午後6時30分から、場所は白銀南中学校体育館において開催いたします。白銀南中、白銀南小、白鷗小の3校が対象となります。もう1点ですが、次回委員会の開催日程でございます。11月5日(木)午後1時30分から開催したいと思います。委員の皆様でご都合悪い方いらっしゃいますか。

(委員一人から都合が悪いとの発言あり)

事務局：他の日程ではなかなか都合がつかないので、ご都合が悪い委員の方には大変恐縮ですが、11月5日(木)午後1時30分開催でお願いしたいと思います。以上でご報告を終わります。それでは本日はこれで終わりたいと思います。大変ありがとうございました。

以上